

【東大合格の極意】

～合格するための10の原則～

「それを夢みることができるのならば、あなたはそれを実現できる」

ウォルト・ディズニー

「受験に合格するのに一番大切なことはなんですか？」

今、あなたが一番聞きたいことではないでしょうか。

究極的に言えば、「勉強すること」以外ありません。

ですがこんなことを言うと、「いや～、そうじゃなくて、参考書とか予備校とかですよ！」

と不満に思われる方もきっといらっしゃるでしょう。

確かにこのような情報も大事かもしれせん。

また、世の中には確かに『裏技的な勉強法』なるものが出回っています。

僕もいくつか手にしたことがあります。その内容は、小手先の知識に過ぎず、東大受験レベルに役に立たないものから、

「なるほど、これは使える」というものもあります。

ただ、読めばそのまま自動的に成績が上がるなんてものは存在せず、効果を出すためには絶対に欠かせないものがあるなあと

いつも思います。それは、

「謙虚にその方法論を受け入れる」ということと、「地道にその方法を実践していく」ということです。

まさかこんなことを考える人はいないと思いますが、いくら「効率的」な方法でも、学力が1ヶ月程度で劇的に上がるなんてことはありません。

いや、ないことはないのですが、そんなことばかり期待するのは間違っていると思います。

確かに、その類の本をいくつも読むと、本当にそう思えてしまいますが・・・。
そんなことが誰にでも起こるわけではありません。

そんなことを考えているくらいなら、実際に合格した人たちの話を聞いてコツを知ったほうが絶対にいいです。
ということで今回、実際に東大に合格した人にインタビューをしてみて、みんなに共通した考え方を10個リストアップしてみました。

中には、「聞いたことがある」というものから、「目からウロコ」というものもきっとあると思います。

彼らがいったいどういう考え方をしている、自分にはなにが足りないのかを探してみてください。

このような情報をこちらで配信しています。もしよかったらご覧ください。

<http://www.mag2.com/m/0000196999.html>

それでは、楽しんでください！

富田将信

【受かるヤツは、結果が全てと知っている】

スポーツでもなんでも、結果が出るものには「いい結果」か「悪い結果」のどちらかしかありません。そして、それはレベルが高くなっていくほど、シビアなものになってきます。

しかし、これまでの18年しか生きていない人生の中で、そこまで深刻に結果を求められるという経験をしてこなかった人は、模試や定期テストの『結果』を非常に甘くみてしまいます。

悪かったらもっと反省しろ、ということを言いたいわけではありません。結果が悪くてもいいからそのままにしておくなよ！といたいのです。

生徒でも、模試の結果が悪いといろんな言い訳をします。別に言い訳をすること自体はいいです。

肝心なのは、その『言い訳』で出てきた課題をきちんと潰しておくということです。

「計算ミスが多かった」 ではどうすればミスが減る？ 毎日計算ドリルをやろう！

「公式がうる覚えだった」 では、どうすれば忘れない？ 公式カードを作成しよう。ゴロもつくってしまおう

「緊張していて」 では、どうすれば緊張しない？ ネットや書店で情報を集めよう

「10分前に着いたので」 では、どうすればいい？ 次回はもっと余裕を持って行こう

など、それぞれの言い訳にきちんと対策をして欲しいのです。

「結果が全て」

確かに、シビアで厳しい言葉ですが、この意識をきちんともてば、あなたの言い訳も「そのまま」であるはずがありません。

【受かるヤツは、
自分の戦う『型』を知っている】

ご存知の通り、東大の二次試験は440点満点です。
では、そのうち何点とれば合格か把握していますか？

例年、5割5分～6割とれれば合格することができますよ。って、これだけ聞くと簡単に思うかもしれませんが。

一時期「ドラゴン桜」などに触発されて東大を目指す人口が増えたことがありましたが、こういう一面的なことだけを聞いて「オレでも受かるかも？」とってしまったのでしょうか。

確かに、合計で6割を取るといことは難しいとは思いません。100点満点のテストで「60点で合格」といわれれば、誰もが「簡単なテストだ」と思います。

何か苦手科目があっても、得意科目で9割、うまくいけば満点近い点数を稼げば、不可能ではありません。

ですが、東大の問題ではどんなに得意科目といえども、試験で8割以上の得点をたたきだすのは至難の業です。よほどの天才(全国模試でトップ10に入るなど)であれば話は別でしょうが...

合格する人は、綿密に「どうやって得点するか」というイメージを立てます。

自分の得意科目はなんだろうか。入試までに何点とれるようになっていだろうか。

自分の苦手科目はなんだろうか。どうせ伸びないなら、あまり時間をかけたくない。
この科目で自分がとるべき点数は何点なんだろうか...

このように、自分の特性にあった戦略を立てるのです。きちんと自己分析をして、『自分の型』というものを把握します。

「なんとなく」「どの教科もまんべんなく」は絶対に失敗してしまうのです。

【受かるヤツは、「不安」と「自信」を
うまく同居させている】

結果を出す人の特徴。それは平常心です。

正確にいうと、「自分の感情の振り子をうまくコントロールしている人」です。東大生に限らず、何かで成功している人は、この『見かけの』平常心をもっている人達ばかりです。

『見かけの』と言ったのは、そういう成功した人たちだって、当然「不安」や「迷い」を持っているからです。彼らは、それを表にだすことなく、必要なことをできるだけ(意識的に)淡々とこなしているのです。

淡々とこなすということは、簡単そうに思えて、なかなか真似をすることができません。なにせ、僕たちはドラマティックな話が大好きなんです。『スラムダンク』や『ワンピース』のようなストーリーが大好きなんです。

淡々とこなすよりも、アツく、感動的でドラマティックな……。

そういう成功のイメージを僕もよくしていました。

ですが、現実の世界では、うまくいっている人は必要なことを淡々とこなしているのです。

何かでうまくいったからといって、次の日の作業に差し支えるほど騒ぐことはありません。失敗したからといって、次の日に何もできなくなるほど落ち込むことはありません。

『ありません』というか、そうならないようにしているのです。

こうして、毎日同じことをコンスタントにこなすことが大事なのです。

合格するのに、10000のことをしなければならぬとしましょう。

- 1 毎日10ずつコンスタントにこなす
- 2 一日20やる日もあれば、まったくやらない日もある

現実の世界では、1の人がうまくいきます。まさに『継続は力なり』です。

不安になった時、なにが一番効果的な薬になるかわかりますか。

それは、「いい結果を出すこと」です。その一番の近道は、**毎日、継続して必要なことをこなす**のです。そして、それが少しずつ実を結んでくると、「自分の方法は間違っていないんだ」という自信につながります。

こうして、少しずつ集めた自信は、ひょんなことで顔を出す「不安」をうまく退治してくれます。

そうすれば、モチベーションが下がって勉強しなくなるということはありません。すると継続するから、また力がつく。受かる人はこういう好循環を作っているのです。

【受かるヤツは、今日が
何月何日か知っている】

あなたは、今日が何月何日か知っていますか？
別にふざけて聞いているのではありません。

この質問に正確に答えられる人は多くないのです。

では、次の質問です。

あなたが二次試験を受ける日はいつですか？
センター試験は？
センター対策はいつからはじめるのですか？
過去問はいつからはじめるのですか？
弱点補強には何日間時間をかけることができるのですか？
その参考書は何日間で仕上げるつもりですか？

……

これらは、全てが【重要事項】なはず。全て把握しておかなければならないはず。

こうすると、「計画通りにいくことなんてないでしょ！そんなのムダ！」とすぐ反論が帰ってきます。
しかし、「計画通りにいかないから計画をたてない」というのはおかしいでしょう。

普通なら、どうすれば計画(目標)通りにいくか、ということを考えます。

また、受験のような長期戦では、いきあたりばったりの勉強法は必ず失敗します。

「計画とおりにいかないが、ある程度区切りをつけて、修正する」とうのが本来あるべき態度です。
これがきちんとできていれば、今日が何日なのか忘れることはありません。

受験は1日1日が勝負なのです。

【受かるヤツは、「ゴルゴ13」を読んでも、
「ああ、いい勉強になった」と言える】

これは、本編の方で書きましたが、東大を受験するなら「(知的)好奇心」が必要不可欠です。

もしあなたがこれを身につけていると、相手が何を言わんとしているのかを考えるクセも自然についてくるはずで、興味津々なんですから。

東大を受験する人間に必要な資質は、正確な知識を身につけて運用するということです。ですが、なにもその源が教科書や参考書に限定する必要はありません。

漫画やネットでもいいのです。

たとえば、『ゴルゴ 13』というマンガには世界経済、政治の構造、大手企業と零細企業、科学技術の発展などを題材にして書かれています。

受かる人は、これらを読んで、「ああ、政経の問題よりもよっぽどアタマに入ってくる」といつてのけます。またある人は、「英作文の解答に役立った」「小論文のアイデアに使えたよ」などとも言います。

別に、ゴルゴ 13 を読めとっているわけではありません。

教科書や参考書をこなすことだけが勉強だと思っている人に、「それは誤解だよ」と言いたいのです。

ブルーバックスやSFの小説、NHKの番組など、試験の点数に直接結びつかなくても、いま勉強していることは社会でどんな風に使われているのを見ておくと世界観も変わってきますし、モチベーションにもつながります。

もし、教科書や参考書だけをこなすことが勉強だと思っているのであれば、合格したとしてもあなたには、

「目の前の情報をこなす力」しかありません。

お味噌汁のお椀が“すーっと”動くのはなぜか。こんなことを自分の知っている物理の知識で推論してみてください。簡単に答えはでてきません。

どんなことから勉強できる。多角的に思考できるようにする。
実は、これが一番東大入試攻略に役立つかもしれません。

【受かるヤツには、「メモ魔」が多い】

日記をつけたことってありますか？これってなかなか続かないですよ。
では、メモはどうですか？

ちょっと気になったら、つけるだけでオッケーです。実は、勉強ができる人はメモをしている人が多いです。
あのアインシュタインもメモ魔でした。また、理系の人間は、気になったことをメモ(記録する)ことが常識です。

勉強ができる・できないは、知識の量だけできまりません。
いくら知識があっても、単にそれを羅列するだけでは、とても点数には結びつきません。
因果関係もきちんと抑えておく必要があります。

解答や参考書を読んでいて、納得いかないところはありませんか？
そういうところは、こまめにチェックをいれるようにしましょう。

なんてことのない疑問。これを残すか残さないかが勝負の分かれ目だったりします。

【受かるヤツはケータイを捨てられる】

現在、勉強をする中で深刻な問題があります。それは、「ケータイ電話」です。
昔は、自分の部屋にテレビなんかありませんでした。ですから、手元にあるのはマンガくらいです。
マンガは強い意志があれば……あればの話ですが、なんとかやめることができます。マンガの方から、「お～い、オイラを無視しないでくれよう！」と声をかけてくることはありません。

しかし、ケータイの場合はあちらから呼んできます。
これに耐えられず、ずーっと、ケータイをいじっているという受験生が本当に多いのです。

しかも、今の世代は中学生、もっと早い子は小学生のころからケータイを持っています。
そんな小さいときから持っているので、“受験だから”と言って、ケータイを使うことを控えるということはまずできないのです。

ですが、これは「普通の」受験生の話。受かるヤツはどうしているか。

彼らはケータイを捨てることができます。

といっても、ゴミ箱に捨てるということではありません。自分が勉強している時間は電源をきる(こんなことですらできない受験生がほとんどなんです！)、または決めた時間以外は使わないということです。

このケータイはひとつの例で、マンガやテレビ、音楽などいろんなことに当てはまります。

個人的には、「あれもこれもしたい！」という考え自体は、いいと思います。
しかし、それを実現していくには、代わりに何かを(一時的に)あきらめる必要があります。

甲子園に行くような高校生がどんな生活をしているか知っていますか？

普通の高校生の生活とはおよそかけ離れています。

ボクシングで世間を騒がせたあの一家も、その練習量はかなりのものです。

大きな目標を持ち、またそれを実現していく人は、きちんと割り切って行動しています。

我慢し続けて、努力することが美しい、ということを行っているわけではありません。その目標をかなえるために、なにかを差し出す(我慢する)ことは絶対だと知っておいてください。

【受かるヤツは「なが〜い目」を持っている】

勉強のモチベーションが続かないという人がいます。

いろんな理由がありますが、もしその人が勉強だけでなく、ダイエットや運動も続かないタイプだとしたら、「勉強」の内容ではなく、その人の「ものの見方」に問題があります。

どんなに努力しても、3日やそこらで20キロも痩せることはできません。また、1年間野球を頑張ったからといって、甲子園に出場するレベルに達するかといえば難しいものです。

しかし、元来人間なんてラクをしたがる生き物なので、ちょっとやって成果がでないとすぐにあきらめてしまうのです。どんなことも続けなければ力がつくことはないを知りつつも。

受かる人は、最終地点を見つめています。

ですから、目先の小さなことに振り回されることがありません。

もし、あなたが、ちょっとうまくいかないと感情的になって、やめてしまうようなところがあれば、

- 1 力がつくには3ヶ月かかる
- 2 常に最終地点の照準を合わせる

ということを意識的に考えるようにしましょう。

【受かるヤツは、「漢字」と「計算」
を大事にしている】

あなたが勉強で一番大切にしているものはなんですか？

東大レベルの大学を受験する人は、「理解」「論理力」を大事にしているといいます。
しかし、東大に合格する人は、そこに「漢字」「計算」を加えます。

はっきりいって、『漢字』『計算』などは、やれば誰でも身に着けることができます。
ですが、いざ試験になるとこの力の差が非常に大きなものになってくるのです。

あなたもこんな経験をしたことがありますか？

「ああ、考え方は分かってたのに、計算でミスった！」

「漢字の問題が解けなかった」

「この英作文、単語のスペルを間違えた！」

これは誰にでも起こるミスです。しかし、信じられないかもしれませんが、合格する人はこういうミスをしません。
誰にでもできることはミスをしない。日本一の大学に入るならそのくらいのことが必要なんです。

【受かるやつは、デキルのに「謙虚」】

受験するくらいの年齢、18歳くらいの世界観はおどろくほど狭く、その思考回路は自分の中で閉じています。そのため、謙虚さが無い人間もたくさんいます。

説教するつもりはありませんが、謙虚さがなければどんなことも身につけることができません。

例えば、あるおじいさんが、公園で休んでいたあなたに、空手を教えてくれるとっています。

もし、あなたが「うるせえな、このクソジジイ！てめえの暇つぶしに付き合っている時間はねーんだよ」と思いながら(なぜか)指導を受けていたとしましょう。

かなり極端な例ですが...

では、反対に、空手7段の有名な師範で180センチを超える大きな男性を、いとも簡単に投げ飛ばすような人だと分かったらどうでしょう。あなたはきっと真摯に相手の言うことに耳を傾けるはずですよ。

前者と後者でどちらの方が、力がつくか一目瞭然ですね。相手(この場合おじいさん)の言うことは変わりません。

あなたがどういう姿勢で相手の話を聞くかで、同じ話しても知識でもあなたの吸収力が変わってしまうのです。

誰のことでも頭から信じる、ということではありません。しかし、まずは謙虚な姿勢でいなければあなたはチャンスを逃してしまうのです。

【受かるヤツは「量より質」を口にしない】

「勉強しなさい」といわれると、すぐに親子喧嘩になってしまいますよね。
その中で、「オレは、『量より質タイプ』なんだよ!」という人がいます。

まあ、ケンカの中で売り言葉に買い言葉ということならいいのですが、どうやら本気でそう考えている人がいるようです。

確かに、「量より質」はいい言葉です。常に心がけたいものです。

ですが、どんな一流選手や経営者を見ても、量をこなしていない人なんて、一人もいません。

シアトルマリナーズのイチロー選手は『質』のいい練習をしています。
では、彼は量をこなしていないか？

そんなことはありません。誰にも負けない練習量をこなしています。
『質』のいい練習を『大量に』しているのです。

だから、誰にも負けることがないのです。

また、『質のよさ』はどうやって判断するのでしょうか？
これは、大量の練習をしていく中で、試行錯誤をして発見していくのです。

そこで初めて『質』のいい練習(学習法)が見つかるのです。あなたはこの言葉をいいわけに使っていませんか？

【受かるヤツは眠いのを我慢しない】

「どうしても眠くなる場合はどうすればいいですか？」

この質問は本当に多く、僕も周りの東大生に何人も聞きました。それで結論。

「眠いなら、寝ろ！」

ということでした。どうやらみなさん、眠いのを我慢して勉強するより、15分くらい仮眠をとってスッキリして勉強していたらしいです。

また、睡眠は知識の定着に必要な不可欠ということが研究で分かっています。

睡眠時間を削らないといけない人は、睡眠時間以外のものを削るようにしましょう。
眠い時は寝ましょう。

ちなみに、その研究によると朝は数学系(論理系)、夕方は歴史系(暗記系)が一番効率がいいらしいですよ。

【受かるヤツは、「アウトプット」を
大事にしている】

「勉強」というと教科書を読んだり、暗記カードをぺらぺらめくる様子が目に浮かびますよね。
これは、「インプット」の作業に当てはまります。

ですが、いつか効率が悪くなる時があります。こういう場合、暗記法を研究する人が多いですが、
実は、その前にやっておくことがあります。

それは、「アウトプット」です。

問題を解くというのもひとつのアウトプットです。ですが、それだけではなくもう少し意識的なアウトプットをしましょう。
例えば、世界史の問題などイギリスとフランスの間で起きた戦争とその背景などを**白紙**に書き出してみましよう。

この時、『白紙』というのがポイントです。この作業をしている時になかなか出てこない知識に対して暗記法や暗記カードを
つかえばいいのです。

化学の有機物のアルカンやアルケンなどを知っているだけ書き出してください。
この時、細部までこだわって書いてください。

簡単に覚えられそうなものはそのまま覚える。アウトプットによって頭に浮かばなかったものだけを暗記法で凌ぐ。
すごく効率的だとも思いませんか？

「アウトプットするからインプットされる。」小論文で有名な樋口先生も対談の中でこうおっしゃっていました。

【受かるヤツは自分の悪い結果を人に言える】

成績が伸びやすい人とそうでない人がいます。これは意外と簡単に見抜くことができます。

その基準は、解答を隠す・隠さないです。

例えば、あなたは自分の答案を誰かに見せることができますか？

それも悪い点数の時に。(単に開き直って成績が悪いのをお互いに見せ合っ楽しんでるのは除きます)

これはなかなかできることではありません。自分では恥ずかしいから隠してしまうのですから。

しかし、それをだれかに見せることができるということは、自分でその結果を受け入れたという証拠です。

それが出来て、初めて自分の弱点を改善することができるのです。

【受かるヤツは、今日の？を明日まで引きずらない】

【受かるヤツは仲間を大事にする】

【受かるやつは時間が一番大事なものだ知っている】

【受かるやつは、悩んでいても手は止めない】

ん？あれ！いつの間にか10以上になっていた！

ということで、東大合格の極意【入門篇】はこの辺にしておきたいと思います。

以上のことはほんの一例にすぎませんが、とても大事なことです。
もし、なにか参考になることがあったらとてもうれしいです。

先ほどもご紹介しましたが、

<http://www.mag2.com/m/0000196999.html>

では、このような情報を配信しています。

毎日とはいきませんが、週に2回の配信を目標にしています。

ケータイ版もあります。



僕の話ですこしさせていただきますと、受験では本当に苦労したと思います。
というか、受験生がはまりやすいワナは一通り、はまったかな？とも思います。

ですが、そんな中から試行錯誤して、解決する方法を考えてきました。
そして、それを自分以外の人、つまりこれから受験する人に役立ててもらおうと、今頑張っています。

今回、ご紹介したのは、ほんの一部にしか過ぎません。
受験生時代はいろんな予備校にいきました。また、いろんな参考書を買いました。
200冊以上は買ったでしょう。

と、いろんな話をここに書いておきました。
<http://hot-company.com/todaigokaku/>

何が嬉しいといえば、自分以外の人にもキチンと成果が出ているということです。
もし、興味があったら、ご覧ください。

最後に。

受験はあなたの人生の目的地ではありません。通過点です。

しかし、受験はあなたを変える契機になります。

この機会を生かしてください。

この後の人生の伸びは、ここでいかにもがいて、泥くさくても地道なことをやれるか、だと思います。

あなたの合格の知らせを待っています！

富田 将信